

HIDWR

兵庫県感染症発生動向調査週報(速報) 2026年第20週(5月11日~5月17日) 兵庫県感染症対策センター(兵庫県立健康科学研究所)

Hyogo Infectious Diseases Weekly Report

全国の情報は国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイトホームページにてご覧ください。 <https://id-info.iijhs.go.jp/>

定点把握感染症(指定された医療機関から報告を求める感染症です)

水痘

定点あたり患者数は今週 **0.34人**(先週 0.31人)と増加しました。
地域的には、尼崎市保健所管内で注意報レベルとなっています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点あたり患者数は今週 **2.87人**(先週 1.22人)と増加しました。

基幹定点把握対象感染症の罹患数

無菌性髄膜炎 1人(0.07人)、マイコプラズマ肺炎 3人(0.21人)、感染性胃腸炎(ロタウイルス) 2人(0.14人) ※括弧内は定点あたりの患者数

※ 2025年4月7日(第15週)より、定点数に変更となりました。

※ 2025年4月7日から、急性呼吸器感染症が追加になりました。詳しくは厚生労働省ホームページ(急性呼吸器感染症(ARI))をご覧ください。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/ari.html>

全数把握感染症

1類感染症	報告はありません。
2類感染症	結核 12人 (保健所:神戸市3人、尼崎市2人、西宮市2人、明石市3人、加古川管内1人、加東管内1人)
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 5人 (①神戸市;有症者;男性40歳代;O157 VT1VT2;感染地域:兵庫県;感染経路:経口感染、②神戸市;有症者;女性20歳代;O26 VT2;感染地域:兵庫県;感染経路:経口感染、③神戸市;無症状病原体保有者;男性40歳代;O157 VT1VT2;感染地域:兵庫県;感染経路:経口感染、④宝塚保健所管内;無症状病原体保有者;女性20歳代;O157 VT1VT2;感染地域:兵庫県;感染経路:経口感染、⑤龍野保健所管内;有症者;女性20歳代;O103 VT1;感染地域:大韓民国;感染経路:経口感染)(累積報告数23人;有症者11人、HUS0人)
4類感染症	重症熱性血小板減少症候群(SFTS) 1人 (神戸市;男性70歳代;感染地域:兵庫県;感染経路:動物・蚊・昆虫等からの感染) 日本紅斑熱 1人 (神戸市;女性50歳代;感染地域:兵庫県;感染経路:動物・蚊・昆虫等からの感染) レジオネラ症 3人 (①尼崎市;肺炎型;男性60歳代;感染地域:兵庫県;感染経路:不明、②加東保健所管内;肺炎型;男性50歳代;感染地域:兵庫県;感染経路:不明、③丹波保健所管内;肺炎型;男性60歳代;感染地域:不明;感染経路:不明)
5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症 1人 (伊丹保健所管内;男性50歳代;感染地域:兵庫県;感染経路:飛沫・飛沫核感染;ワクチン接種歴:不明)

	<p>水痘（入院例） 1人（神戸市；臨床診断例；男性 50 歳代；感染地域：兵庫県；感染経路：飛沫・飛沫核感染；ワクチン接種歴：不明）</p> <p>多剤耐性緑膿菌感染症 1人（神戸市；男性 2 歳；感染地域：兵庫県；感染経路：不明）</p> <p>梅毒 4人（①神戸市；早期顕症梅毒 I 期；男性 60 歳代；感染地域：国内；感染経路：異性間性的接触、②西宮市；早期顕症梅毒 I 期；男性 50 歳代；感染地域：国内；感染経路：異性間性的接触、③西宮市；早期顕症梅毒 I 期；男性 40 歳代；感染地域：国内；感染経路：異性間性的接触、④加東保健所管内；早期顕症梅毒 II 期；男性 30 歳代；感染地域：兵庫県；感染経路：異性間性的接触）</p> <p>百日咳 5人（①神戸市；女性 10 歳代；感染地域：兵庫県；感染経路：不明；ワクチン接種歴：不明、②神戸市；女性 10 歳代；感染地域：不明；感染経路：不明；ワクチン接種歴：不明、③姫路市；女性 20 歳代；感染地域：兵庫県；感染経路：不明；ワクチン接種歴：不明、④伊丹保健所管内；女性 50 歳代；感染地域：兵庫県；感染経路：不明；ワクチン接種歴：不明、⑤加東保健所管内；男性 10 歳代；感染地域：兵庫県；感染経路：家族内感染；ワクチン接種歴：4 回有）</p>
2026年19週までに診断されたものの報告遅れ	<p>結核 1人</p> <p>侵襲性肺炎球菌感染症 1人</p> <p>百日咳 2人</p> <p>麻疹 1人</p>

ダニ媒介感染症（重症熱性血小板減少症候群・日本紅斑熱）

今週、**重症熱性血小板減少症候群（SFTS）**及び**日本紅斑熱**の報告が**各々1人**ありました。いずれも今年の累積患者数は2人となっています。

これらは主に病原体（ウイルスやリケッチア）を保有するマダニに咬まれることで感染します。

SFTS は SFTS ウイルスを病原とし、主な症状は原因不明の発熱、嘔吐・下痢などの消化器症状、血小板減少、白血球減少などが認められ、重症化すると死に至ることもあります。潜伏期間は6～14日で、治療薬はなく対症療法となっています。一方、日本紅斑熱はリケッチア・ジャポニカを病原とし、主な症状は発熱、発疹、刺し口が赤く腫れ中心部がかさぶたになるのが特徴です。潜伏期間は2～8日で、治療にはテトラサイクリン系の抗菌薬等が投与されます。

マダニの活動が活発となる春から秋にかけて、ハイキングや草むらに入る場合は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくする、虫よけスプレーを活用する、帰宅後すぐに入浴し着替えるなどの予防対策が必要です。また、山野へ入った2週間以内に発熱や発疹が出た時はすぐに受診し、その時の行動を伝えることが重要です。

腸管出血性大腸菌感染症

今週**5人**の報告があり、今年の累積患者数は**23人**となりました。

※2026年4月6日から、多剤耐性緑膿菌感染症が、全数把握対象感染症に追加になりました。

この週報はホームページ（https://web.pref.hyogo.lg.jp/iphs01/kansensho_jyoho/infectdis.html）にも掲載しています。

2026年3月24日からHPが新しくなりました。旧HPは、一部を除き、閲覧出来なくなりましたのでご注意ください。

また <https://id-info.jihs.go.jp/> から国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイトの週報（IDWR）がダウンロードできます。